

ロールモデル講演会 実施報告書

【演題】女性研究者・医療職として等身大で生きる ～ワークライフバランス～

【講師】錦織 淳美 氏（岡山大学病院薬剤部・薬剤師、Pharm. D.）

【日時】平成 29 年 10 月 10 日（火） 13：00～14：30

【場所】岐阜薬科大学本部 第二講義室

【参加者数】90 人（うち女性研究者 5 人）

講師は岐阜薬科大学卒業生であり、卒業後にアメリカのフロリダ大学薬学部にて臨床薬剤師の学位である Pharm.D. (Doctor of Pharmacy) を取得した経歴を持つ。現在は大学病院の薬剤師であるが、調剤や服薬指導などを行う薬剤師業務だけではなく、研究活動、大学講義で教壇に立つなど、幅広く活躍されている。



まずは医療人が行う研究について、講師が行っている研究の概要を紹介された。病院薬剤師として、科研費に採択された実績をもち、その研究内容についても紹介していただけた。業務中に疑問に思うことが研究課題になると言われた。

次に、昨年、アリゾナ州ツーソンメディカルセンター病院において、退院後フォローアッププログラムの電話カウンセリングシステムの見学・研修に行かれたため、その内容を紹介していただいた。アメリカでは、退院後 1 ヶ月以内に再入院するとその医療費について医療保険から支払われないことになっているため、このシステムを考案・導入されており、アメリカらしい制度と実感したそうである。

岡山大学病院で昨年度より「保険薬局薬剤師向けのシミュレーション教育」の開発に取り組んでいる。実際の映像もまじえて紹介していただいた。医師や看護師と共通言語、つまり専門用語を理解して医療現場で薬剤師として任務を全うすべく、研修プログラムの構築に取り組んでいるということであった。

最後に、ワークライフバランスをいかにしてとっていくか、講師のこれまでの経験と岡山大学の取り組み、さらに今後の目標についてお話しいただいた。

講師は日本の大学を卒業後、アメリカにて Pharm.D. を取得し、現在の勤務先に就職。結婚・出産・育児や地域活動期間を経て、研究活動を行うようになった。家庭（プライベート）と仕事のバランスをとり、そのために家族や友人の協力を得たり、仕事の選択（在宅でできる業務）を行ってきたりした。気力、体力、公私ともに時間を確保し自分の中でバランスをとり、志を維持していくことの重要性をお話しいただき、学生や研究者にとって励みになるものであったと思われる。

また、研究者として続けていくために重要なこととして、研究マインド（疑問の抽出）、チームの協力、情報収集・推進力と時流を感じるアンテナを常に立てていること、を挙げられた。

病院薬剤師として働く講師の話聞き、薬剤師としての業務、研究者としての取り組み、大学教員としての講義内容など、様々な業務について紹介いただき、大学病院勤務の薬剤師の姿を具体的に知ることができた。

また、臨床研究者という存在にも触れることができ、学生にとっては将来を考えるために有意義な機会であったと思われる。結婚、出産などライフイベントも経験した実体験からの話であり、研究者にとっても今後の自身の活躍に向けて励みになる有意義な機会となった。